

令和5年度 鉄道分野における標準化活動貢献者表彰 および組織表彰の受賞について

公益財団法人鉄道総合技術研究所の職員および関係組織が、「令和5年度鉄道分野における標準化活動表彰貢献者表彰・組織表彰」を受賞しました。この標準化活動表彰は、標準化活動の重要性を広く認識し、推進していくことを目的として、鉄道技術標準化調査検討会（委員長：大崎博之 東京大学大学院教授）が、鉄道分野における国際標準化および国内標準化活動に貢献した個人および組織に対して授与するものです。

○令和5年度標準化活動貢献者表彰

鉄道分野における国際標準化および国内標準化活動に関し、顕著な業績を挙げたと認められる者に授与するものです。

受賞者：鉄道国際規格センター 次長 横山 信行

【主な業績】

ISO/TC 269/WG 5 (RQMS：鉄道品質マネジメントシステム)において国際エキスパートを務め、鉄道業界全体に影響を及ぼすと予想される課題の検討に積極的に参画し、ISO 22163 (鉄道品質マネジメントシステム)に日本の事情を反映させることに貢献した。また、IEC/TC 9/MT 62888 (車上エネルギー測定)において国際エキスパートを務め、国内の専門家の意見の取りまとめや、国際会議での他国エキスパートとの交渉に尽力し、IEC 62888シリーズの改訂に大きく貢献した。

受賞者：鉄道国際規格センター 担当部長 芳賀 昭弘

【主な業績】

長年にわたり、車両分野全般に関わる国際エキスパートとして、規格審議および策定に貢献した。ISO/TC 269/AHG 7 (マイグレーション戦略)メンバーとして日本の意見を主張し、適切な運営に導くことに貢献するとともに、ISO/TC 269/SC 2/WG 7 (脱線検知装置)、IEC/TC 9/MT 61373 (振動衝撃試験)、ISO/TC 269/SC 2/WG 4 (車両のリサイクル性及び回収性)、IEC/TC 9/MT 61133 (営業投入前の完成車両の試験方法)等、多数の規格審議の場に国際エキスパートとして参加し、日本の鉄道技術の国際標準化に貢献した。

○令和5年度標準化活動組織表彰

鉄道分野における国際標準化又は国内標準化活動に寄与し、他の模範となる優良な取組みを行ったと認められる組織に授与するものです。



標準化活動貢献者表彰を受賞した
芳賀昭弘担当部長（左）と横山信行次長（右）



標準化活動組織表彰を受賞した
公益財団法人鉄道総合技術研究所
鉄道国際規格センター 人材育成ワーキンググループ

受賞組織：公益財団法人鉄道総合技術研究所
鉄道国際規格センター 人材育成ワーキンググループ

【主な取組み】

鉄道分野における国際標準化活動を戦略的に進めるために必要な情報を提供するセミナーを新規に企画・開催し、国際標準化活動に関する専門的な知識や戦略的に進めるための情報を提供することに貢献した。また、IEC・ISO等における過去の審議の経験や教訓等を題材として、鉄道分野に特化した自主教材を新規に作成し、グループワークに取り組むなど、鉄道

分野の標準化人材の育成に貢献した。

なお、上記のほかに、「RAMS規格改訂作業部会」および「RQMS規格解説書WG」においても、当研究所の職員が同組織の一員として組織表彰を受賞しました。

参考：国土交通省「令和5年度 鉄道分野における標準化活動表彰～受賞者及び受賞組織の決定並びに表彰式の開催について～」
https://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo06_hh_000123.html

鉄道総研ニュース

令和6年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰の受賞について

公益財団法人鉄道総合技術研究所の職員が、令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞し、その表彰式が、4月17日に文部科学省 講堂において行われました。若手科学者賞は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満*の若手研究者個人を対象として、文部科学大臣が授賞するものです。 *出産・育児により研究に専念できない期間があった場合は、42歳未満

受賞者：情報通信技術研究部 情報解析研究室 主任研究員 松岡 弘大

【受賞業績】地上および車上からの鉄道橋りょうモニタリングに関する研究

【研究概要】

高度経済成長期に建設された高速鉄道におけるコンクリート橋りょうの一部では、ひび割れや列車通過時の過大な振動が発生しますが、そのモニタリングのためには膨大な数の橋りょうの列車通過時のたわみ（鉛直変位）を地上から1橋りょうずつ計測する必要がありました。松岡氏は、走行する車両上で計測された軌道変位や車体加速度に混入する共振橋りょう特有の振動成分を解明し、この特徴を用いて、先頭および最後尾車両の車上計測データから共振橋りょうを抽出する手法を構築しました。

本研究成果は、地上計測の大幅な省力化を実現する鉄道橋りょうモニタリング手法として、複数の高速鉄道路線で利用されるとともに、橋りょう上で電車線設備の保全にも活用されており、効率的な鉄道設備メンテナンスの実現に寄与するものと期待されています。

参考：文部科学省「令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者等を決定しました」
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_01364.html



令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞した松岡弘大主任研究員

「2024年度技術交流会」を大阪で開催しました

公益財団法人鉄道総合技術研究所は、5月24日に「2024年度技術交流会」を開催しました。今年度は、大阪で4年ぶりの開催となり、鉄道総研の最近の研究開発成果を全分野にわたって紹介しました。本技術交流会には、鉄道事業者を中心に109社525名の方が来場されました。

鉄道の安全性向上・省人化・省力化などに資する最近の研究開発成果の中から、車両、運輸・営業、信号・通信、電力、構造物、防災・地震、軌道の7分野にわたる計44件の成果展示を行いました。

また、車両技術研究部、情報通信技術研究部、構造物技術研究部の各部長による基調講演が事前収録され、参加登録者にはYouTubeにより事前配信されたほか、会場でも放映されました。



開発成果のプレゼンテーション
「感圧センサを内蔵した戸先ゴムによる戸挟み検知」

基調講演： ■車両技術に関する最近の研究開発成果

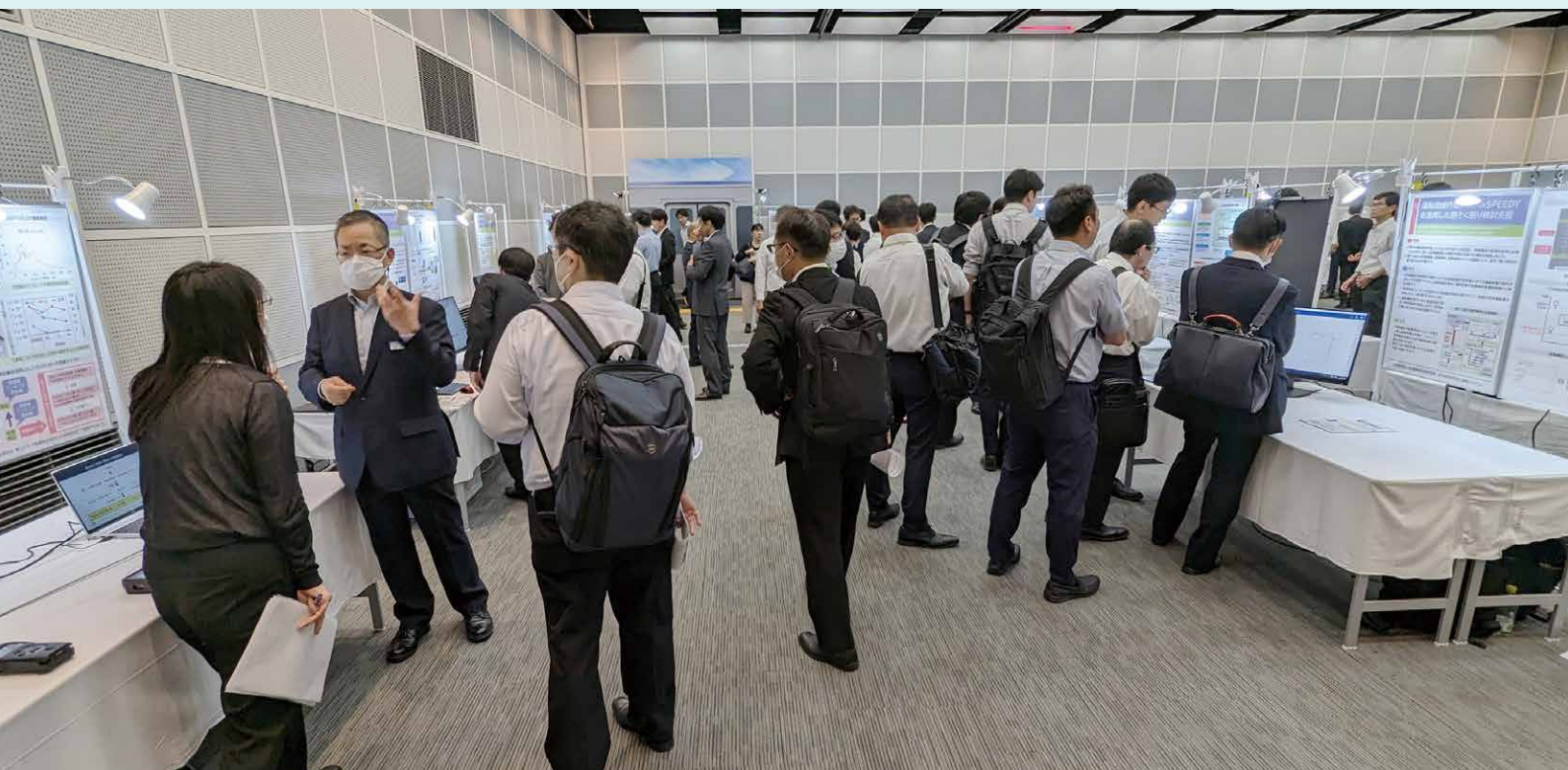
車両技術研究部長 石毛 真

■情報通信技術研究部におけるデジタル技術に関する研究成果

情報通信技術研究部長 福田 光芳

■鉄道構造物分野における最近の研究開発の動向と研究成果

構造物技術研究部長 神田 政幸



交流会会場の様子「運輸・営業分野」